

「今昔福岡市」展

～昔の絵葉書と今の写真で見る福岡市～

展示期間:平成27年6月3日～7月5日

展示場所:総合図書館2階文書資料室

1. はじめに

福岡市には、風光明媚な場所や名勝旧跡が多く存在し、私たちの日常生活に溶け込み、憩いの場所となっています。

また、都市としての発展のために様々な機能を有する建物が建てられ、それは今日の私たちの生活に欠かせぬものになっています。

そのような何気なく見過ごしている身の回りの風景・建物が、時代とともに移り変わっていることを気づかせてくれるのが、昔の絵葉書です。

絵葉書は、旅先の風景や祭りなど、その時代の一場面を切り取り、人々の心に残る思い出の資料として残されています。

そこで、その時々発行された昔の絵葉書と現在(今)の同じ場所の風景写真を見比べ、福岡市の発展の歴史を見てみることにしました。



2. 東区

なじますいじょうひこうじょう なじまうंदうこうえん
(1)名島 水上 飛行場 [名島運動公園付近]



(資料:絵葉書 106-1-28)

大正 14(1925)年、福岡船溜り沿いに福岡で最初の飛行場ができ、水上飛行機による大阪への定期郵便輸送が行われました。

しかし、その飛行場が手狭になり、昭和 5(1930)年に糟屋郡多々良村(現在の東区名島)に絵葉書のような名島水上飛行場が建設されました。大阪との間に6人乗りドルニエール機による定期旅客便を運航しました。

昭和6年にはアメリカ人の飛行家リンドバークと夫人が、北太平洋航路飛行の途中にこ

の場所に飛来しました。

展示のリーフレット資料は、平成 23(2011)年に名島自治協議会・名島公民館が発行した「リンドバーク来航 80 周年記念」の資料で、「水上飛行機をつり上げるクレーンは、当時の名島のランドマークにもなっていました。」と記載されています。

また、名島水上飛行場からは上海への定期航路も開かれ、国際飛行場となりましたが、時代は陸上飛行場を求めつつあり、昭和 9 年定期便の運航を停止。その後、雁の巣の福岡第一飛行場の開場により役割を引継ぎ、名島水上飛行場は閉鎖されました。

この一帯は、現在、埋め立てられて住宅地となっています。その一角に写真のような「名島水上飛行場跡」の石碑が建ち、付近の道路は「リンドバーク通り」の愛称で呼ばれています。

はこぎきはま とうろう はこぎぐうさんどう
(2)箱崎浜の灯籠 [筥崎宮参道]



(資料:絵葉書 151-21-1)

絵葉書の中央の建物は、第 13 回九州沖縄八県連合共進会(博覧会)の付帯施設として、明治 42(1909)年に建設された汐湯「抱洋閣」^{ほうようかく}です。

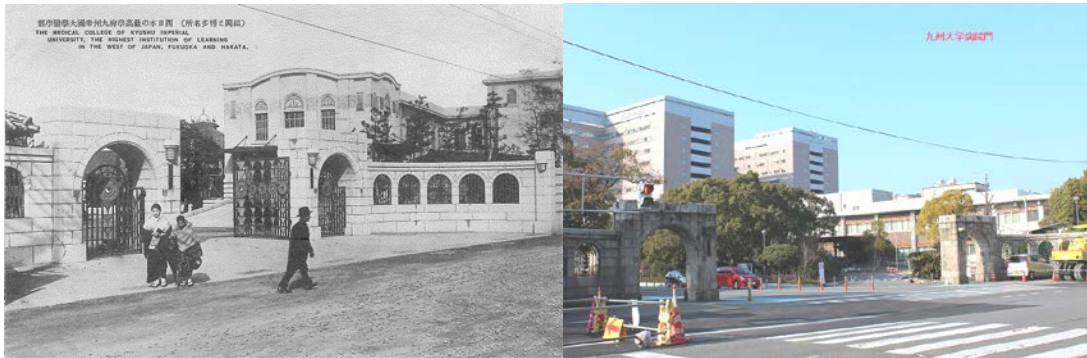
赤煉瓦造りの本格的な宿泊施設で、設計は東京駅や福岡市の赤煉瓦文化館を手掛けた辰野金吾氏です。浴場のほか、水族館、海水浴などの設備も併設されていたので、多くの人で賑わいました。

洋式の抱洋閣は外国人賓客の宿泊所であり、後には九州大学の中国留学生の宿舎ともなっていました。県の迎賓館的な役目も果たしていましたが、博多湾鉄道、国道 3 号線の工事で撤去されました。

絵葉書左端の灯籠は、文化 14(1817)年に箱崎浦の漁師が帰船の目印として築造し、夜には漁師たちが当番制で火を灯したと言われています。当時は灯籠の足元はすぐ海であり、満潮時は灯籠の台座を波が洗っていました。

右側の写真の灯籠は昭和 43(1968)年に改築されたものです。写真左端には国道 3 号線が通っています。埋立てにより海岸線は 200 メートルほど沖に移りました。

きゅうしゅうだいがくいがくぶせいもん けんちょうきゅうだいびょういんまえ
 (3) 九州大学医学部正門 [県庁 九大 病院 前]



(資料: 絵葉書 106-1-21)

明治 36(1903)年他県との激しい誘致合戦の末、県立福岡病院の地(現在の馬出3丁目)に、九州大学の前身となる京都帝国大学福岡医科大学が創設されます。

明治 44 年に工学部・医科の2科大学からなる九州帝国大学が東京・京都・東北に次ぐ4番目の帝国大学として創設されました。当時の教授陣には、欧州で最新の医学を学んだ俊英たちが赴任し、日本医学史に輝く軌跡を残した教授も多かったようです。

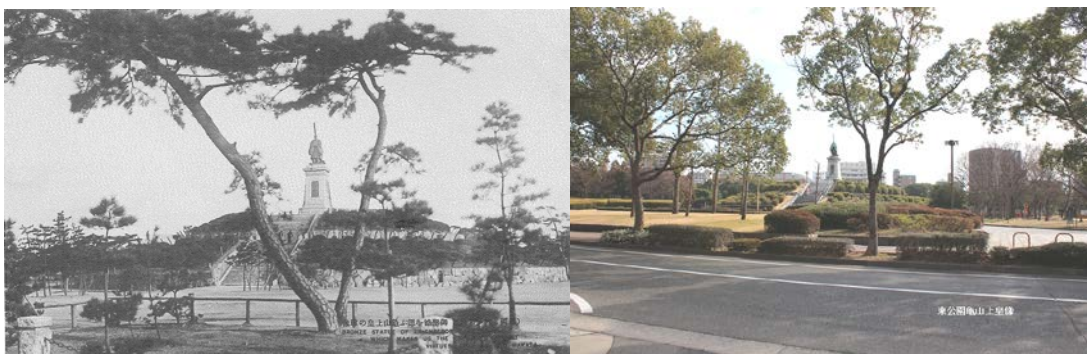
現在、医学部構内には初代学長大森治豊の名を冠した「大森通り」を始め、功労のあった6人の教授の名前がついた通りがあります。
おもりはるとよ

今日、九州大学は大部分が西区元岡地域へ移転しましたが、病院地区については現地再開発の方針が決定され、平成 21(2009)年に新病院に建て替えられました。

絵葉書の門は現在も残っていますが、車の通行のため門の幅が拡げられているようです。

3. 博多区

かめやまじょうこうぞう にちれんしょうにんぞう ひがしこうえん
 (1) 亀山上皇像・日蓮上人像 [東公園]



(資料: 絵葉書 106-1-17)

現在の東公園のあたりは、文永の役で元軍と激戦が展開された古戦場跡で、かつては千代の松原として知られ「東松原公園」と呼ばれていました。太政官布告に基づき、明治 9(1876)年福岡市の公園第1号として開園した歴史ある公園です。明治 33 年に「東公園」と名を改め県営の公園となりました。

明治 21 年頃から元寇記念碑建設のための義援金募集が行われ、亀山上皇像は、博多出身の彫刻家山崎朝雲が原型の木彫像を製作し、日蓮像は東京美術学校(現・東京藝術大学)の校長であった岡倉天心が引き受け、両像とも明治 37 年に完成しました。

昭和 56(1981)年には公園の北側に福岡県庁舎が天神から移転建設されたこともあり、写真の像の背景にも見られるように公園周辺にはビルが建ち並んでいます。

現在の東公園は、亀山上皇をシンボルとした日本風公園として、新しい都市のオアシスを形成し、県民の憩いの場所となっています。

お やま そうかん くしだじんじゃまえ
(2) 追い山の壮観 [櫛田神社前]



(資料:郷土資料「絵葉書4」)

博多の夏の祭りに博多祇園山笠があります。

山笠は7月15日に「追い山」が行われ、各山笠のスピードが競われます。

午前4時59分、太鼓の合図で一番山笠の櫛田入りがあり、境内を出ると須崎町の「廻り止め」まで、各山笠が次々と約5kmを全力疾走します。絵葉書は「櫛田入り」(櫛田神社に入場すること)する前の様子です。

昔は高さ10メートル以上ある装飾豊かな山を昇っていましたが、山笠が電線を切断する事故が相次ぎ、背の高い山は据えられて飾り山となり、運行には背の低い昇き山が生まれました。櫛田神社や追い山のコース周辺も、道幅が広くなり、高層の建物が増えたり、電線が埋設されたりと町の様子は大きく変化していますが、どんなに町が変わっても、山笠にかかわる人々の山笠に対する熱い思いは変わらないようです。

しんきゅう はかたえき はかたえき
(3) 新旧の博多駅 [博多駅]



(資料:郷土資料「絵葉書5」)

明治 22(1889)年に九州鉄道が開業し、初代の博多駅は「博多停車場」として現在の出来町公園付近(水道局前)に誕生しました。明治40年には国有化され、さらなる鉄道需

要の増加から駅舎規模を大きくした2代目博多駅が明治42年3月に、現在の博多区役所付近にできました。

西国一と呼ばれたこの駅舎は、絵葉書に見られるようにルネッサンス様式を採用し、レンガ造りで柱一本一本に彫刻がほどこされた絢爛豪華な建物でした。

昭和38(1963)年12月には、都市機能の充実を図るために博多駅地区土地区画整理事業が行われ、3代目の駅が現在の場所に開業しました。

駅舎の他にステーションビル、交通センター、名店街、地下街なども誕生し、昭和41年5月には博多井筒屋百貨店が創業を開始しました。さらに、駅周辺では昭和40年頃からオフィスビルの建設が続々と進み、福岡都心のビジネス地区として大きく発展しました。

平成23(2011)年3月九州新幹線の全線開通にともない、4代目の駅舎となる新駅ビル「JR博多シティ」が開業すると商業機能も大幅に拡充し、九州各地から多くの人々が集まってきました。

博多駅は九州の鉄道の拠点であり、西日本有数の商業地区へと変貌しています。

しんきゅうはかたざ ひがしこうえん かわばたまち
(4) 新旧博多座 [東公園・川端町]



(資料:郷土資料「絵葉書8」)



明治から昭和初期にかけて、博多には大博劇場や九州劇場をはじめ多くの劇場があり、市民の生活に演劇文化が根づいていました。

絵葉書の「(旧)博多座」も明治43(1910)年11月東公園(現在の博多税務署の辺り)にできました。当時の新聞によりますと、こけら落としにはオペケペー節で有名な川上音二郎・貞奴が招かれています。

しかし、時代とともに常設の劇場が消えていき、博多座も昭和38(1963)年には閉鎖されました。

現在の博多座は「九州に演劇文化の復興を」との市民の熱い思いから、川端地区再開発事業の際に、大型複合商業施設「博多リバレイン」の中に、歌舞伎からミュージカル、宝塚歌劇まで多彩な演目ができる劇場として平成11(1999)年6月にオープンしました。

劇場の名称の「博多座」は、(旧)博多座との関連はありませんが、全国から公募した約2万点の応募の中から選ばれました。

博多座は「芸どころ博多」のシンボルであり福博の演劇文化を支えるものとなっています。

たまや ひがしなかす
(5)玉屋デパート [東中洲]



(資料:郷土資料「絵葉書 8」)

デパートメントストアー玉屋呉服店は、大正 14(1925)年 10 月、鹿児島市、佐世保市に続き九州で3番目、福岡市で最初の百貨店として中洲に開店しました。

佐賀出身の田中丸善三が「福岡は九州の中心都市に発展する。」という先輩の進言を受け止め、東中洲の福岡ビルディングを買取り、改装して「株式会社玉屋呉服店」を設立し、百貨店を開業しました。

建物は地階から5階までが売場で、様々な商品が一堂にそろっているだけでなく、エレベーターも設置され、洋食を出す食堂、屋上には庭園、小動物園、遊戯場等もありました。昭和 10(1935)年には増築し、7 階建てになりました。絵葉書は増築前の玉屋のようです。

その後天神に開店した松屋や岩田屋とともに地域の百貨店として長く親しまれました。

昭和 40 年代以降は、中洲川端地区の商業の不振から、平成 11(1999)年 7 月 15 日閉店。百貨店としての 70 余年の歴史に幕を閉じました。跡地には平成 18 年、新たな商業施設 Gate's(ゲイツ)がオープンしました。

はんか ひがしなかすがい ひがしなかす
(6)繁華なる東中洲街 [東中洲]



(資料:絵葉書 106-1-29)

江戸時代の弘化 4(1847)年、東中洲の一角に「福岡藩精錬所」が開設されましたが、明治の初め頃まで中洲(東中洲)の大半は畑でした。

明治 7(1874)年の常設芝居小屋「永楽社」を皮切りに、常設の劇場・活動写真常設館などが次々に開館し、映画・演劇の街となりました。

また、明治時代に 2 度開催された九州沖縄八県連合共進会(博覧会)により、道路、建物、路面電車などが整備され、中洲の近代化を後押ししました。さらには、博覧会客の

飲食などで東中洲は歓楽街となり、明治 30 年に中洲券番※¹が設立されると、料亭、飲食店、待合ができ、大正に入るとカフェバーが続出して福岡の盛り場となりました。

大正 14(1925)年には百貨店玉屋呉服店が開業し、近くの川端商店街とともに買い物客等で賑いました。

昭和 20(1945)年 6 月の福岡大空襲で東中洲も建物等は焼失しましたが、戦後の復興は早く、映画も復活し、戦前にも増して商店、喫茶店、バーができました。

絵葉書は、現在の明治通りの東中洲付近で、道路の右手奥には「タマヤ」の看板が見えます。 ※1 券番----芸妓組合の事務所。

なかがわ か にしおおはし
(7)那珂川に架かる西大橋 [西中洲・明治通り]



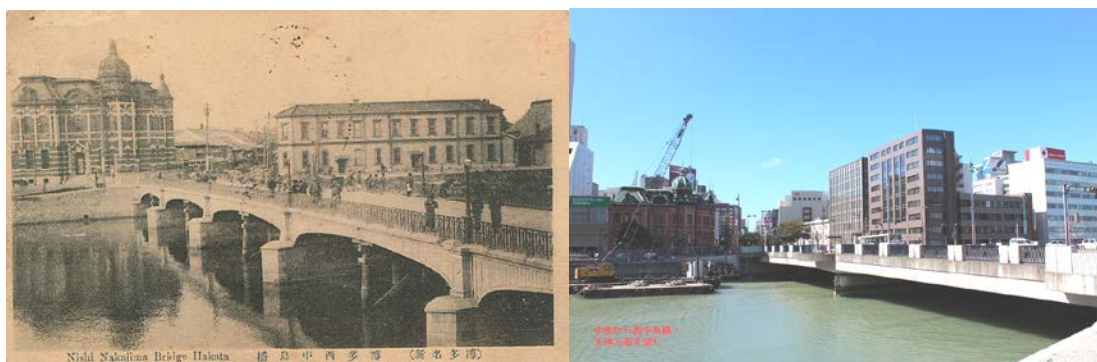
(資料:絵葉書 106-1-30)

西大橋は、明治 43(1910)年に開催された博覧会「九州沖縄八県連合共進会」を機に、東・西中洲をつなぐメインストリートとして明治 42 年に架けられ、この橋の上を市内電車も走っていました。

絵葉書の中央に見える建物は、福岡県物産陳列所で大正 6(1917)年に完成。一時は日本銀行として使われていました。現在は、ここに西鉄イン(旧東急ホテル)が建っています。

西大橋の真下を、電車に代わる交通手段としての地下鉄が走ることとなり、その建設工事に伴い昭和 51(1976)年に橋は解体され、5 年後に新しい橋が架けられました。

なかがわ か にしなかしまばし しょうわどお
(8)那珂川に架かる西中島橋 [昭和通り]



(資料:郷土資料「絵葉書 5」)

慶長 12(1607)年、福岡藩初代藩主黒田長政は那珂川の下流の中洲を整備して、中島町を興しました。

博多側に東中島橋、福岡側に西中島橋と、城下町福岡と商都博多を結ぶ唯一の橋

として、江戸時代は木の橋が架けられていましたが、明治 40(1907)年の架け替えにより近代的な橋となりました。

太平洋戦争後、復興の基幹となる都市計画道路として拡張新設された「昭和通り」(通称50m道路)の建設に際して、昭和 36(1961)年 3 月コンクリート製の橋が架設されました。絵はがき左手の丸屋根のレンガ造りの建物は、明治 42(1909)年に新築落成した旧日本生命福岡支店で、現在は赤煉瓦文化館(福岡市文学館)として市民に親しまれています。

4. 中央区

きゅうふくおかけんちょう しやくしよきたぐち
(1) 旧 福岡 県庁 [市役所北口]



(資料:郷土資料「絵葉書 5」)

明治9(1876)年7月、城内にあった県庁舎が天神町(現・アクロス福岡敷地)に新築移転されました。しかし、老朽化したこともあり、大正 4(1915)年 2 月に、ルネッサンス様式を基調にした新庁舎が建設されました。「輪奐^{りんかん}の美堂々たる福岡 懸^{げん}廳^{ちやう}」と絵葉書の注釈にもあるように、当時としては福岡県随一の大建造物でした。

昭和 30(1955)年代には、行政需要の増大により庁舎が狭隘化し老朽化も進みましたが、庁舎改築の話が出始めました。

建設候補地として、天神町(現地)、東公園、春日市と大野城市の旧米軍宿舎跡地の4か所の中から、最終的に東公園に決定しました。

昭和 56(1981)年 3 月に議会棟、3 月末には警察棟、8 月末に行政棟が完成しました。平成 7(1995)年、天神の旧県庁跡地には国際会議場や音楽ホールとしてイベントができるアクロス福岡が建設されました。(写真はアクロス福岡の入口です。)

ふくおかしやくしよほんちやうしゃ てんじん1ちやうめ
(2) 福岡市役所本 庁舎 [天神 1 丁目]



(資料:H7-永-0097 市制七十周年に関する綴)

明治 22(1889)年市制が施行され「福岡市」が誕生しました。

当初、市役所は天神町^{てんじんのちょう}（水鏡天満宮の西側表通り(現在の「日本生命ビル」)）に建てられました。現在ここには「福岡市役所跡」の碑が建っています。

明治 27 年、市役所は水鏡天満宮の東側にあった福岡高等小学校の跡に移転し、大正 12(1923)年 12 月、現在の場所に絵葉書のような新庁舎が完成しました。この庁舎は大阪市役所の建築様式を模したもので、大阪以西第一の市庁舎として落成しました。玄関の上にバルコニーが突き出て、ここで市民に向かって演説できるようになっていました。この三層白亜の殿堂の三階正面には「福岡市庁」の額が掲げられました。

市勢の発展に対応して市庁舎別館等を増築していきましたが、老朽化や行政需要の増大により狭隘となり、現在地に菊竹清訓設計による15階建てのビルが計画されました。

昭和 57(1982)年 6 月にまず議会棟が建ち、昭和 63 年 7 月には行政棟もできて、市政を担う施設として都心に地上 15 階建ての白亜のビルが完成しました。

てんじんのちょう がいかん てんじんこうさてん
(3) 天神町の街観 [天神交差点]



(資料:絵葉書 106-1-25)

明治 9(1876)年に福岡城内から県庁が天神町^{てんじんのちょう}に移転した後、福岡市役所、警察署などが建ち、天神は官庁街として歩み始めました。

明治 43 年第 13 回九州沖縄八県連合共進会(博覧会)の開催を機に路面電車東西線(福博電車)が開通、翌年環状線(博軌電車)も開通して、2つの軌道が天神で交差しました。

その後、九州鉄道(現・西日本鉄道大牟田線)福岡駅や松屋百貨店、岩田屋百貨店などが天神で開業するとともに、新聞社や放送局なども集まりました。

昭和 20(1945)年 6 月の福岡大空襲で焼け野原となりましたが、翌年にはいち早く「新天町」商店街が開業し、岩田屋百貨店とともに復活、発展していきます。

地下鉄の工事に伴い、昭和 50 年に貫線(東西線)、4 年後に循環線(環状線)の路面電車が廃止されましたが、博多大丸や天神地下街など、高層ビルから地下街まで多くの商業施設ができると同時に、福岡ビルや天神ビルなどのオフィスビルに銀行、商社なども進出し、天神は九州一の繁華街となっています。

左側の絵葉書は、現在の福岡ビル、天神コア付近で、道路(渡辺通り)をはさんだ右端が西鉄福岡駅になります。

てんじん くうさつ てんじん わたなべどお
 (4) 天神の空撮 [天神・渡辺通り]



(資料: 絵葉書 155-11-1)

昭和初期

絵葉書の中央やや上を左右に走る道路が現在の明治通りです。薬院新川と那珂川の合流地点付近には天神橋、西大橋が架かっています。西大橋の東詰の塔は「福助足袋」の広告塔で、大正 12(1923)年に設置され、西大橋の架け替え工事のため昭和 9(1934)年に撤去されたもので、この絵葉書が昭和 9 年以前に撮影されたものと考えられます。

中央の縦方向の広い道路が、現在の市役所と天神中央公園の間の道路です。また、左下方を斜めに走る広い道路が渡辺通りで路面電車が走っています。福岡県庁、福岡市役所、警察署、貯金局や福岡日日新聞社屋があります。

昭和 63 年頃

昭和 60 年代は「バブル景気」と呼ばれる好景気のただ中でした。昭和 63 年に福岡市役所新庁舎が完成し、翌年(平成元年)市制 100 周年を迎え、アジア太平洋博覧会「よかトピア」が百道浜埋立地で開催されました。

写真を見ますと、天神周辺はビル建設ラッシュで、ソラリアホテル、イムズビルなど建設中です。福岡県庁がすでに東公園に移転しており、後の天神中央公園はまだ更地のままになっています。

ふくおかじょうしものはし おおてもん
 (5) 福岡 城下之橋 [大手門]



(資料: 絵葉書 155-10-1)

福岡城は福岡藩初代藩主黒田長政によって、慶長 6(1601)年から 7 年かけて築城されました。

福岡城の堀には、城の正面東側に上之橋、西側に下之橋、背面に追廻橋の 3 つの橋が架けられ、それぞれに御門があり、城内と城下町を行き来するための橋でした。御門は

敵の攻撃を防御するため、頑丈な石垣が組まれ、枡形に作られています。現在残っているのは、この下之橋御門(下之橋大手門)だけです。

下之橋御門は、明治時代に上層部を失い長く一層のままでしたが、平成 12(2000)年に不審火によって被災したため、江戸時代の姿の二層楼門として平成 20 年に復元されました。

写真の手前に見える道は、都市計画道路舞鶴公園線(明治通りの大手門から国体道路の護国神社前まで)で、昭和 30 年下之橋の東側に整備されました。

また、写真には潮見櫓がありますが、浜の町(現・中央区舞鶴3丁目)の黒田家別邸から現在の地に移築されたものです。

おおほりこうえんうきみどう おおほりこうえん
(6)大濠公園 浮見堂 [大濠公園]



(資料:絵葉書 106-1-23)

大濠公園は福岡城の外濠をもとに造成された公園です。

昭和 2(1927)年東亜勧業博覧会がここで開催されたのを機に造園工事を行い、昭和 4 年県営大濠公園として開園しました。

現在の写真では柳島から突き出た朱色のあざやかな欄干と六角形屋根の浮見堂が写っています。これは東公園にあった旧福岡市動・植物園から昭和 24(1949)年に移設されたものです。

市民の憩いの場として親しまれている大濠公園周辺は住宅地であり、写真の背景のようにマンションが建ち並んでいます。

にしこうえんのほぐち にしこうえんいりぐち
(7)西公園 登り口 [西公園 入口]



(資料:絵葉書 106-1-24)

西公園は、古くは「荒津(荒戸)山」と言われ、万葉集にも詠まれた景勝地^よで、福岡・博

多の名所として、絵葉書のように観光客が訪れ、土産物店もありました。

明治 14(1881)年の太政官布告に基づき開園し、福岡市では東公園に次いで歴史ある公園で、当初は荒津山公園と呼ばれていました。明治 33 年に西公園と名を改め、県営の公園となりました。

現在、西公園には数々の記念碑、歌碑が建立されています。写真には見えませんが、西公園登り口の左側に、幕末の志士である平野國臣像があります。

てるも じんじゃ にしこうえん
(8)光雲神社 [西公園]



(資料:郷土資料「絵葉書 5」)

西公園入り口から坂道を登り、突き当たりの石段を上がり鳥居をくぐると光雲^{てるも}神社があります。明治 40(1907)年ここに移転・遷座されました。

福岡藩の藩祖黒田孝高^{よしたか}(如水)と初代藩主黒田長政^{まつ}を祀っています。

神社の名前の由来は、如水の法名「龍光院殿」の「光」と、長政の法名「興雲院殿」の「雲」から一字ずつ取って「光雲神社」としたとされています。

社殿は昭和 20(1945)年 6 月 19 日の福岡大空襲で被災・焼失しましたが、地元有志の尽力により、昭和 41 年に復興・再建されました。

絵葉書と写真を比べますと、鳥居や外壁の位置や形状は一緒のようですが、本殿の配置等が異なります。

にしこうえん しがいてんぼう にしこうえんしたふなだまり
(9)西公園からの市街展望 [西公園下船溜]



(資料:郷土資料「絵葉書 7」)

荒津山の東麓、福岡船溜(博多漁港)一帯はかつて「波奈^{はな}」と呼ばれていました。

寛永2(1625)年2代藩主忠之の御召船「鳳凰丸」を係留するために、荒津山の下の入江を浚渫し、3代藩主光之のときに防波堤の築造工事を行ない、今日の博多漁港の基礎が築かれました。

明治4(1871)年最後の殿様・黒田長知が藩知事を罷免され「波奈の港」から東京へ去った後は次第にさびれ、港の機能もほとんど停止してしまいました。

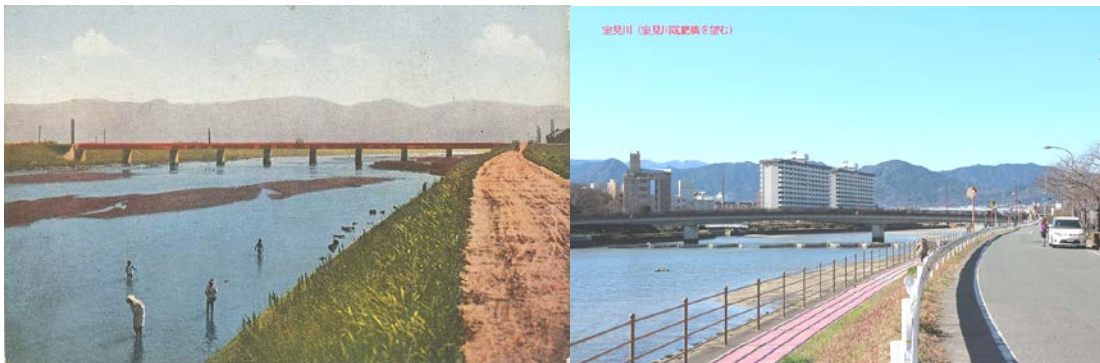
昭和9(1934)年10月福岡市は長崎県五島玉の浦(現・五島市)から徳島遠洋出漁団(遠洋底曳網漁船団)を誘致することに成功し、福岡船溜は漁船団の基地になりました。漁獲量も先進の下関や長崎に迫り、漁港施設の整備が促進され、漁港として復活しました。

昭和29年には長浜地先埋立工事と臨港鉄道が完成し、漁業関連施設の整備も進み、昭和30年には長浜の埋立地に日本一の鮮魚市場が開業しました。平成19(2007)年には市民に開かれた市場として再整備されました。

西公園から望む景色も、徐々に港湾施設等が整備されていく様子が分かります。現在の写真では左手のビルで隠れていますが、タンカーを造る福岡造船株式会社があります。福岡船溜の周辺も高層の建物が多くなり、遠方には新しくなった鮮魚市場関連の建物が見えます。

5. 早良区

むろみがわ てつきょう むろみ みなみしょう
(1)室見川と鉄橋 [室見・南庄付近]



(資料:絵葉書 155-2-1)

西区と早良区の境にシロウオ漁で有名な室見川があります。

この川にはかつて国鉄筑肥線(博多～伊万里)の鉄橋がありました。地下鉄1号線が博多駅まで延伸したことに伴い、昭和58(1983)年、筑肥線のうち博多～姪浜間が廃線となり、残った鉄橋が道路になったのが室見川筑肥橋です。

この橋の欄干には、蒸気機関車の車輪のモニュメントが並び、かつて鉄道が走っていたことを偲ばせます。

写真撮影時にはシロウオの「やな」がかけられていました。室見川河畔には、公園や遊具、サイクリングロードなどが整備され、川沿いには高層マンションも建っています。

だいじょうさい す き さいでん わきやまちゅうおうこうえん
 (2) 大嘗祭主基斎田 [脇山 中央 公園]



(資料:郷土資料「絵葉書 11」)

「^{さいでん}斎田」とは、天皇の即位の大礼と共におこなわれる^{だいじょうさい}大嘗祭の時に、大嘗宮の^{ゆきでん}悠紀殿、^{すきでん}主基殿に奉納する米を栽培する耕作地のことです。

京都以東を悠紀、京都以西を主基の地方と決め、それぞれの地方から新穀を奉納するという習慣になっていました。

昭和 3(1928)年 3 月、昭和天皇の即位の際、「^{ゆきさいでん}悠紀斎田」には滋賀県^{やすしみかみ}野洲市三上の、「^{すきさいでん}主基斎田」に早良郡脇山村(現・早良区脇山)の田が選ばれ、官民をあげてこれに取り組みました。

竹矢来に囲まれた敷地に、斎田、祭を行う斎場などが建てられ、稲作は全て古式の神事に即して進められ、奉仕者は 24 時間体制で斎田を見守りました。

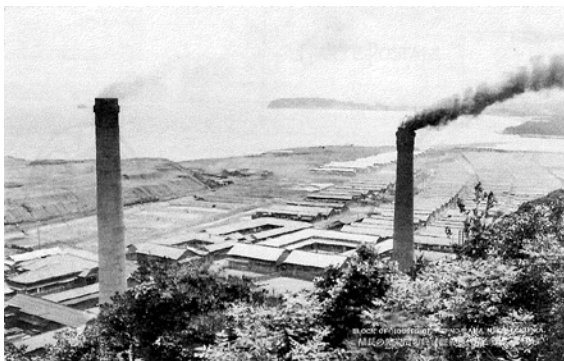
奉耕者・早乙女などにはそれぞれ式服と作業服があり、毎日更衣室で着替え、お祓いを受けて田に入りました。

昭和 3 年 6 月 5 日から 3 日にわたる御田植祭には「ハ乙女舞」「お田植え舞」が舞われました。この時に踊った「お田植え舞」が伝統芸能として地元で引継がれ、早良区脇山小学校の児童たちにも伝承されています。

現在、主基斎田跡は脇山中央公園として整備され、中央奥の仮宮があった場所には「大嘗祭主基斎田碑」と記された記念碑が建っています。

6. 西区

めいのはまたんこう ながや あたごしたとよはま
 (1) 姪浜 炭鉾の長屋 [愛宕下 豊浜 付近]



(資料:郷土資料「絵葉書 7」)

姪浜は、大正 3(1914)年に福岡^{こうぎょう} 鑛業株式会社と姪濱^{めいのはまこうぎょう} 鑛業株式会社(後に合併して「早良鋳業株式會社」)が起業し、炭鋳町として活気があふれていました。絵葉書には煙を吐く煙突の向こうに並ぶ長屋や室見川河口、博多湾が写っています。

当時の記録を残す『早良郡志』に「本郡の北部は煤煙^{ばいえん}天を覆い機関の響き地を震はすの盛況を呈し、為に現住人口は頻^{しき}りに其の数を増し、貨物の移入は頓^{とみ}に其の額を加え氣運^{すこぶ}頗る繁盛を現はして居た。」と炭鋳の隆盛ぶりを伝えています。しかし、その後、石油への転換によるエネルギー革命により、昭和 37(1962)年炭鋳は閉山しました。今日、炭鋳の跡地は整地され、公有水面の埋め立てなどが行われ、住宅や大きなショッピングモール、高層マンションなどが建設され、都市的な景色に様変わりしています。

◆主な参考文献等

- 書名＋巻数等／編著者／発行者／発行年 ※編著者と発行者が同一の場合は発行者を省略
- ・福岡県史通史編 近代[1] 産業経済(二) 西日本文化協会編纂 福岡県 2000.3
 - ・福岡県史通史編 近代[3] 産業経済(一) 西日本文化協会編纂 福岡県 2003.3
 - ・福岡市史 第2巻 大正編 福岡市役所 1963.10
 - ・福岡市史 第3巻 昭和前編上 福岡市役所 1965.3
 - ・福岡市史 第9巻 昭和編続編(1) 福岡市役所 1990.9
 - ・福岡市議会史 第1巻 明治編 福岡市議会事務局 1971.3
 - ・福岡市議会史 第2巻 大正編 福岡市議会事務局 1979.3
 - ・福岡市議会史 第3巻 昭和編(一) 福岡市議会事務局 1991.3
 - ・新修福岡市史 特別編 福岡城 築城から現代まで 福岡市史編集委員会編集 福岡市 2013.3
 - ・早良郡志 福岡県早良郡役所編 名著出版 1973.2
 - ・福岡の歴史 市制九十周年記念 福岡市総務局編集 福岡市 1979.10
 - ・ふるさと一〇〇年 福岡市市制一〇〇周年記念 福岡市 1989.6
 - ・福岡近代絵巻 福岡市制施行 120 周年記念 福岡近代絵巻展実行委員会 2009.9
 - ・福岡市の今昔 上巻 北島寛監修 郷土出版社 2011.8
 - ・福岡市の今昔 下巻 北島寛監修 郷土出版社 2011.9
 - ・福岡市の再開発 福岡市都市整備局 2003.1
 - ・九州大学医学部百年史 九州大学医学部創立百周年記念事業後援会 2004.3
 - ・九州大学百年史写真集 1911-2011 九州大学大学文書館編集 九州大学百周年記念事業委員会 2011.5
 - ・博多駅六十五年史 博多駅編集 1955.12
 - ・博多駅史 85 年のあゆみ 博多駅 85 年史編纂委員会編集 1977.7
 - ・鉄輪の轟き 九州の鉄道一〇〇年記念誌 九州旅客鉄道 1989.10
 - ・博多駅地区区画整理誌 都市開発局博多駅区画整理部編 福岡市 1974.3
 - ・博多祇園山笠大全 西日本新聞社・福岡市博物館編 西日本新聞社 2013.11
 - ・博多座 明治・大正・昭和の歴史 川添末子著 文芸社 2001.11
 - ・博多座誕生物語 元専務が明かす舞台裏 草場隆著 花乱社 2011.5
 - ・博多中洲ものがたり 前編 咲山恭三著 文献出版 1979.9
 - ・博多中洲ものがたり 後編 咲山恭三著 文献出版 1980.11
 - ・川上音二郎の生涯 井上精三著 葦書房 1985.8
 - ・福岡城天守と光雲神社 荒戸東照宮跡・光雲神社西公園鎮座百年祭 荻野忠行著 梓書

院 2006.9

- ・写真集 明治大正昭和 博多 ふるさとの思い出 21 波多江五兵衛・石橋源一郎編集 国書刊行会 1979.2
- ・ふくおか絵葉書浪漫 アンティーク絵葉書に見る明治・大正・昭和の福岡県風俗史 (平原健二・畑中正美コレクション) 益田啓一郎編 海鳥社 2004.8
- ・博学博多 200 増補改訂版 調福男・渕浩子著 西日本新聞社 2014.3
- ・ふくおか歴史散歩 第2巻 福岡市市長室広報課編集 福岡市 1982.12
- ・ふくおか歴史散歩 第3巻 福岡市市長室広報課編集 福岡市 1987.2
- ・ふくおか歴史散歩 第4巻 福岡市市長室広報課編集 福岡市 1991.3
- ・ふくおか歴史散歩 第5巻 福岡市市長室広報課編集 福岡市 1996.3
- ・福岡歴史探訪 東区編 柳猛直著 海鳥社 1995.2
- ・福岡歴史探訪 博多区編 柳猛直著 海鳥社 1993.10
- ・福岡歴史探訪 中央区編 柳猛直著 海鳥社 1996.4
- ・福岡歴史探訪 南区・城南区編 柳猛直著 海鳥社 1994.6
- ・福岡歴史探訪 早良区編 柳猛直著 海鳥社 1995.11
- ・福岡歴史探訪 西区編 柳猛直著 海鳥社 1995.6
- ・大名界隈誌 柳猛直・財部一雄著 海鳥社 1989.2
- ・角川日本地名大辞典 40 福岡県 「角川日本地名大辞典」編纂委員会編 角川書店 1988.3
- ・福岡市博物館 アーカイブズ ふくおかの記念碑めぐり 2
- ・福岡市の文化財 文化財情報検索
- ・中央区役所ホームページ
- ・福岡市ホームページ 中央卸売市場
- ・博多祇園山笠公式ホームページ (博多祇園山笠振興会)
- ・西日本鉄道株式会社 天神アーカイブ「天神発展史」
- ・大濠・西公園管理事務所ホームページ
- ・東公園ホームページ
- ・Web 地図の資料館 デジタルアーカイブ アンティーク絵葉書・写真にみる懐かしの風景・町並み

※ 展示の中央区ホームページ「中央区みどころ情報発信館」は、区民ボランティア「ちゅうおう PR サポーター」の取材作成記事です。